

市議団が「核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書(案)」を提案

共産党市議団は12月議会でも「核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書(案)」を提案し、12月22日、田中はじめ市議が意見書案の提案理由の説明を行いました。

田中市議は、「人類史上初めて核兵器全面禁止を明文化した条約の批准国が50か国に達し、ついに核兵器は違法化



田中 肇
市議会議員

その後も批准国は増え、現在51か国、署名国は86か国に達した。12月7日の国連総会で、核兵器禁止条約への署名・批准の進展を歓迎する決議案が、130か国の賛成で採択された。

さらに、生命保険大手の日本生命など主要各社が核兵器製造・関連企業への投融資を

自制すると発表、大手銀行にも投融資の自制が広がりを見せ、核兵器禁止条約発効の力が、既に世界を変え始めている。

そこで、本意見書案は、唯一の戦争被爆国として一日も早く核兵器禁止条約の署名・批准を行い、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取り組みをリードすることを政府に求めるものである。」と賛同を呼びかけました。

他会派からの賛同もありましたが、賛成少数で否決されました。

「最低賃金…」 「国保…」 2件の陳情の採択を主張 吉儀けい子市議



吉儀 けい子
市議会議員

12月議会に、島根県労働組合総連合(村上一議長)から「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める」陳情と、松江市民社会保障推進協議会(石田忍会長)から「松江市国民健康保険の保険料算定にあたって、18歳未満の世帯員への均

等割をなくすことについて」の2件の陳情が提出されました。

「最低賃金…」が経済委員会、「国民健康保険…」が総務委員会に付託となり、経済委員会では吉儀けい子委員が採択を主張し、総務委員会では田中はじめ委員が採択を主張しましたが、2件とも不採択が多数でした。

12月22日の本会議で、それぞれの委員長が陳情を不採択とした報告を行い、吉儀けい子市議が委員長報告に反対する以下の討論を行いました。

子育て世帯の支援を5300万円

国保世帯で子どもが生まれると国保料が高くなることを改善すれば、出生数を増やすことになる。16億円の基金から取り崩して実施すべき。

コロナ禍、営業と生活守る対策強化を 松江民商が松江市へ申し入れ

12月18日、松江民主商工会は、「2021年度松江市商工行政に対する要望」を行い、懇談しました。

民商からは諸遊克巳会長、

足立徹事務局長ら5人が参加、松江市からは福井博之産業経済部次長・商工企画課長、林正樹財政部次長・固定資産税課長、荻野智定住企業立地課長、小松原紀子市民部次長・保険年金課長、山崎文子介護保険課長らが応対。この申し入れには、橋よしあき松江市議、たちばなふみ市議予定候補が同席しました。

申し入れでは、まず、「小規模企業振興法」「松江市中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、経営の持続発展ができる税制や社会保険料、その他諸制度を検討すること、そのうえで、コロナ禍



民商が松江市に申し入れ、懇談

「いそいそ」

市民と共に歩んで

いきいき生きる

たちばなふみ



2年前からは、新日本婦人の会の先輩である西尾幸子さんの戦争体験を語り継ぐ朗読劇「さあちゃんとヒロシマ」に参加しています。

劇では最後に、ひよっこりひよたん島で有名な作家、井上ひさしさんの「子どもに伝える日本国憲法」の第9条を全員で読み上げます。人が人として扱われないのが戦争、人間らしく生きるためには、平和でなくてはならないとい

う思いが伝わります。西尾さんに教えていただいたものに、井上ひさしさん作詞の「釜石小学校校歌」があります。校歌ですが、東日本大震災で避難所となった体育館で、皆が毎朝うたって励まされたこと、全国に拡がりました。その歌は「いきいき生きる」という言葉で始まり「息あるうちはいきいき生きる」と歌い上げます。

平和を土台に、人間らしく生きる決まり「憲法」がくらしに生かされ、ひとり一人が大切にされる、最後まで尊厳をもって生きられる社会となるよう力をつくしたいと思っています。

被爆体験を綴る朗読劇「この子たちの夏」。私は20代の頃、戦争を知らない世代が語り継ぐ活動に感銘を受け参加しました。幼少期、原爆絵本「ひろしまのピカ(丸木俊)」を読んで以来、原爆や平和に関心があったからです。

平和を土台に、人間らしく生きる決まり「憲法」がくらしに生かされ、ひとり一人が大切にされる、最後まで尊厳をもって生きられる社会となるよう力をつくしたいと思っています。

平和を土台に、人間らしく生きる決まり「憲法」がくらしに生かされ、ひとり一人が大切にされる、最後まで尊厳をもって生きられる社会となるよう力をつくしたいと思っています。